

日本オペラ振興会会報

表紙photo:

藤原歌劇団公演
「ラ・トラヴィアータ」

日本オペラ協会公演
「静と義経」

写真撮影:池上直哉

JO F

Japan Opera Foundation

NEWS



No. 32



G.プッチーニ

妖精ヴィッリ

2026年1月31日(土)・2月1日(日) 両日14:00

東京文化会館 大ホール

アンナ 砂川涼子／迫田美帆

ロベルト 澤崎一了／所谷直生

グリエルモ・ウルフ 岡 昭宏／清水良一

語り 豊嶋祐壺

合唱 藤原歌劇団合唱部

管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団

藤原歌劇団公演

対談

2026年1月31日・2月1日の東京公演に
むけて、「妖精ヴィッリ」でアンナ役を演じ
る砂川さんと迫田さん、「カヴァレリア・
ルスティカーナ」でサントウツツア役を演
じる桜井さんと小林さんに公演の意気込み
や魅力を語っていただきました。

砂川涼子

アンナ

RYOKO SUNAKAWA
SAKODA MIHO

迫田美帆

純真から怨念へ——
2人のプリマ・ドンナが語る
アンナという女性

——アンナをどのように演じたいです
か？

砂川 最初の方は無邪気で可愛らし
く、若々しい女の子としてはしゃいで
いるシーンもありますが、闇を抱えて
いる部分もあると思います。その差を
はつきり出すようにというようなお話
を演出家の岩田さんからいただきました
。後半は音楽もドラマチックになっ
ていきますが、最初の登場シーンも残
しながら、ただ怨念だけではなく、愛
があるゆえのというところがどこかに
出るような、そういうアンナを演じる
ことができたかなと思います。

迫田 涼子さんもおっしゃったよう
に、後半は特に、怨念とかに引っ張ら

れるというよりは、アンナが持ってい
る元々の純粹さやまっすぐさ、それゆ
えのさまざまな怒り、成し得なかった
ことがヴィッリになるというところに
繋がっていくと思うので、軸を失わな
いように、一貫したキャラクターで演
じられたらと思います。

——このオペラはプッチーニが初めて
作曲した作品ですが、何か特徴はあり
ますか？

砂川 基本的にプッチーニが描いた女
性像は、どのオペラにも共通すること
がありますよね。オペラでいうと最初
の登場シーンに自己紹介のアリア、こ
の人はこういう人ですというのを示す
曲があります。「ラ・ボエーム」にもあ
りますよね。今回のアンナの音楽は高
音が少なく、どちらかというと低音が
多く、オクターブの跳躍が何箇所にも
出てきます。そこには若さという何か
があるのかもしれませんが、そんなに
派手ではありませんが、音の作りはと
ても難しいなと感じます。

迫田 そうですね。和声進行やメロ
ディックな部分、美しい旋律を使うと
いう面では、その後の作品に繋がって



砂川涼子

——普段、どのように役作りをしてい
ますか？

出発点の作品だなと感じます。しか
し、これまでの作曲家の要素なども取
り入れているなと感じるところがあり
ます。例えば、ショパンの旋律を感じ
たりだとか、いろんな人の影響を受け
たんだろうなという部分が見えますね。

砂川 歌手によってそれぞれだと思
います。私は稽古の前に勉強をして準備
はしていきますが、誰かが演じている
のを研究したり、真似をしたりという
ことは一切しません。どのように演じ
よう、動こうとかは考えずに、現場で
指揮者と演出家とのやりとりの中でそ
こに向かって自分の引き出しの中から
試していますね。

迫田 外付けのものは嘘になってしま
うので、外枠で固めるというのには私
もしないようにしています。本当に良い
作品は、音楽をきちんと読んで、自分
の中に落とし込んだだけで自分の中か
ら感情が生まれてきますよね。そこを
大切に、現場へ行き、共演者の方と一
緒に刺激を受けながら作り上げていく
ことをしています。



迫田美帆

「対談」砂川涼子×迫田美帆

P.マスカーニ

カヴァレリア・ルスティカーナ

2026年1月31日(土)・2月1日(日) 両日14:00

東京文化会館 大ホール

サントウツツア 桜井万祐子／小林厚子
トゥリッドウ 笛田博昭／藤田卓也
ルチア 牧野真由美／米谷朋子
アルフィオ 井出壮志朗／森口賢二
ローラ 丹呉由利子／高橋未来子

合唱 藤原歌劇団合唱部
管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団

桜井万祐子

サントウツツア

MAYUKO SAKURAI
ATSUKO KOBAYASHI

小林厚子



——サントウツツアを演じる想いを教えてください。

小林 このサントウツツアという役は楽譜を見るとソプラノと記載されており、初演の方もソプラノでしたが、私はこのお話をいただくまで楽譜も持っていないかったですし、歌手人生の中で演じない役だと思っていたので遠くから眺めていました。どの役でも思う事

ですが、私の声でできるところを見つけてられたらと思います。

桜井 イタリアでもソプラノ・ドラマテイコのような重たい声の人でもこの役を歌っているイメージでしたが、厚子さんの演奏を聴いて、サントウツツアがソプラノとスコアに記載されているのが理解できるなと思いました。若い役、そしてとても可愛い、優しい。どうしてもトゥリッドウを戻したいという思い、これを私は一緒にお稽古させていただいて、多くの発見があり楽しいです。

小林 メzzo・ソプラノ、ソプラノではなく、人が変われば全く違う。同じ人が演じてても時が違えば全く違う作品ができる。そこがまた面白いと思うので、ぜひ両日お越しいただきたいですね。

桜井 そうですね。両日観ていただくと、インスピレーションが違うと思います。それが私にとって喜びだと感じています。

——このオペラの魅力、見どころを教えてください。

桜井 自分が歌うところではないですが、間奏曲が一番ウルっときますね。女性としてもさまざまな意味で叶わなかった夢がそのシーンで叶う瞬間だと思います。

小林 どこも見どころ聴きどころで選べません……今回、私は恋敵である

ローラの言葉にハッとさせられています。1時間ほどの作品ですが、音楽とドラマがぎゅっと濃密に詰まっております、登場人物たちの心の有り様に、皆さまがどこか共感していただけたら演じる我々は幸せです。

——来てくださるお客様にメッセージをお願いします。

小林 今回、プッチーニ作曲の「妖精ヴィッリ」とセットで上演されるのは本当に特別ですね。このダブルビルは40年ぶりだそうです。実は私、その時の藤原歌劇団公演を観ているのです。まだ子どもでしたが、両親に連れて行ってもらいまして、東敦子先生がアンナ(妖精ヴィッリ)をお歌いになられて、大感激したことをよく覚えています。

桜井 ものすごい作品とご縁がありますね。

小林 「カヴァレリア・ルスティカーナ」、日本語に訳すと「田舎の騎士道」です。稽古を重ねて私が色濃く感じるようになったのは、登場人物たちのそれぞれの「騎士道」です。当日客席の皆さまにお届けすべく、チーム全員で稽古に励みます。

桜井 遠い話ではなく、身近にあるお話なので、「オペラだから遠い世界」ではなく、少しでも自分のどこか一つずつ寄り添って、「あつ、ここ分かるな」というところがあつたら嬉しいです。

2026年2月7日(土)14:00

愛知県芸術劇場 大ホール

「妖精ヴィッリ」

アンナ 伊藤 晴
ロベルト 澤崎一了
グリエルモ・ウルフ 岡 昭宏
語り 豊嶋祐壹

「カヴァレリア・ルスティカーナ」

サントゥッツァ 桜井万祐子
トゥリッドゥ 笛田博昭
ルチア 牧野真由美
アルフィオ 井出壮志朗
ローラ 丹呉由利子

合唱 藤原歌劇団合唱部
管弦楽 セントラル愛知交響楽団

藤原歌劇団公演

愛知公演

INTERVIEW

2026年2月7日愛知公演に出演するに「妖精ヴィッリ」でアンナ役を演じる伊藤さん、「カヴァレリア・ルスティカーナ」でトゥリッドゥ役を演じる笛田さんに公演に対する思いや魅力について伺いました。

G.ブッチーニ

妖精ヴィッリ 伊藤晴 アンナ HARE ITO

——初めてこのオペラを聴いたときの印象

まず、オーケストラと合唱のドラマティックな音楽に魅了されました。特にオペラのラストで、妖精たちがアンナの恋人ロベルトを取り囲んで「回れ！踊れ！」と叫ぶシーンの爆発的な激しい音楽が印象的です。

「妖精ヴィッリ」はブッチーニの最初のオペラ作品ですが、若いブッチーニのダイレクトな音楽表現を感じられます。またアンナのキャラクターに、後のミミやリユーにも繋がる部分を見出すことが出来て興味深いです。

——地元でオペラ公演に出演する想い

藤原歌劇団公演として愛知県芸術劇場で歌わせていただくのは、2017年「カルメン」ミカエラ役、2021年「ラ・ボエーム」ミミ役に続いて3回目となりますが、毎度縁の地で歌わせていただく喜び、有り難さを感じております。

特に「妖精ヴィッリ」のようなドラマティックで上演機会の少ない作品の魅力を、地元の皆様にお伝えすべく、稽古に奮闘しております。

是非、愛知で心震えるオペラ体験を味わいに、劇場へいらしてください！



P.マスカーニ

カヴァレリア・ルスティカーナ 笛田博昭 トウリッドゥ HIROAKI FUEDA

——笛田さんから見る、トゥリッドゥという役の魅力

役に対してはそんなに魅力は感じませんね(笑)ただ、オペラとしてはとても分かりやすくヴェリズモオペラの代表的な作品なので、作品としては十分に魅力があると思います！

——ゆかりの地、愛知でオペラ公演に出演する想い

名古屋、愛知は私にとって第二の故郷です。やはり特別な想いがありますね。自分を育ててくれた地でもありますし、オペラ歌手としての土台を作ってくれた場所です。応援してくれている方々のために精一杯歌います。



みうらたまき
三浦環

新演目

日本オペラ協会公演
新作初演
— オペラ歌手・
三浦環の「声」を求めて —

1884(明治17)年東京に生まれ、東京音楽学校で声楽を学ぶ。帝国劇場などで舞台に立ったのち、1914(大正3)年に夫の三浦政太郎の留学に伴い渡欧。イギリスでブッチーニ作曲「蝶々夫人」のタイトルロールを歌い、大きな成功を収めた。翌年にはアメリカへ渡り、以降は各地で国際的な演奏活動を行った。代表役である「蝶々夫人」の出演回数は実に2,000回に及び、この記録はいまなお破られていない。可憐で清澄な声と、日本舞踊を基礎とした美しい所作は世界中の聴衆を魅了し、ブッチーニからも「あなたは世界にたった一人の、最も理想的な蝶々さんです」と絶賛された。日本人初の本格的な国際的オペラ歌手として、その名は今も広く知られている。

第一幕

あらすじ

父・熊太郎は、娘の将来を良縁に託そうとしていた。しかし環は、父との不仲から離縁されたものの姿をまのあたりにし、仕事をもち母を助けようと決心する。恩師・高木チカに歌の才能を見出され、環は東京音楽学校への進学を希望するが、熊太郎は「歌など遊びごと」と猛反対。環は熊太郎を選んだ相手と結婚することを条件に進学の機会を掴む。

校則では結婚は禁じられていた。既婚であることを隠し、環は音楽学校では、昭憲皇太后の御前演奏、奏楽堂での歌劇オルフォイスの百合姫(エウリディーチェ)役など才能を発揮する。一方、幼なじみの政太郎は密かに環への想いをつのらせていたが、内祝言を上げたことを知り愕然とする。

そんな中、夫の転勤が決まるが、環は同伴ではなく離婚を選ぶ。それは、女性でありながら歌で生きていくという強い決意の表れだった。

離婚した後、とわの家に身を寄せていた環の元に再び政太郎が現れ、かつて果たせなかった想いを告げる。熊太郎に会い「僕は音楽家の環さんを尊敬しています。芸術家は社会の華です」と、結婚を申し込むのだった。環と政太郎はドイツへの留学の夢を語り合い、政太郎は資金を得るためシンガポールへと旅立つ。日本に残った環の前に、野心に満ちた新聞記者・安井が現れる。自らが環と政太郎を結びつけたのだと言い、環に対して不穏な圧力をかけてくる。舞台に立ち続ける環は、名声の陰で精神的に追い詰められていく。とわの機転

により安井の魔の手から逃れた環を乗せた船は、政太郎の待つシンガポールへ向けて船出する。

第二幕

ロンドン。環が主役をつとめるオペラ《蝶々夫人》の舞台が開演しようとしていた。客席には、開演を前に震えている作曲家ジャコモ・ブッチーニの姿があった。彼は苦悶していた。日本に行つたこともなく、これまでの作品と同様、追い詰められる女を描いてしまった。パリで上演されたいがために、原作を変えてしまった。偽りの蝶々夫人を描いてしまったのではないかと、――

楽屋では、身支度を助けるお雪に環は、かつて安井という新聞記者から逃げて、日本から旅立ったが、いまだに追われている気がしてならないと不安を口にする。

旅芸人として各地を旅してきたお雪は人づてに安井の行方を知っていた。環の心の曇りは消え、晴れやかな心持ちでマダム・バタフライの世界へ旅立つ。しかし、空襲警報が鳴り響き、上演は中断。舞台を諦めきれず、逃げ遅れそうになる環を「今は生きることが大切」と、政太郎が論し救い出す。

環と政太郎はアメリカへと渡り、プリマ・ドンナとして環は名声を高めていく。

その陰で、政太郎は「プリマ・ドンナの抱持」と呼ばれるようになっていた。日本に戻り緑茶の研究に専念することを決意した政太郎は環の元を離れていく。アメリカに残り歌い続けることになった環は、政太郎の研究が認められたときには、日本に戻ってお祝いしましょう、と約束する。

環はイタリアのブッチーニに招かれる。そして、オペラ《蝶々夫人》を歌う時はいつも、作曲家であるあなたへ歌を捧げているのだと、あなたは私の神なのだと語る。ブッチーニは「私は弱い人間だ、神ではない」と答え、環は困惑するが、互いに二人の間には歌があることに気づき、音楽で繋がる喜びを知るのだった。

ある日、環の元に一通の電報が届く。「マサタロウシス」――政太郎の急逝であった。環は悲しみに打ちひしがれながらも、祈りを歌に変えることで、彼の魂と共に生きていく道を選ぶ。数年後。政太郎の墓前に立つ環に世間は「死者には歌が届かない」と冷笑するが、環は彼に語りかけ、歌い続ける。

時代は戦争の只中へ。環は「私はオペラ歌手、軍歌は歌いません」と毅然とした態度を貫く。そして、アメリカ人との恋に敗れた女が自ら命を断つ、オペラ《蝶々夫人》の上演は戦争が終わるまで封印する決意を固める。疎開先の湖畔の村で、とわは病に倒れ、環は介護に明け暮れる。とわは、最期に「生まれる時に、私のおなかの中に置き忘れた声を返そう」と語り、静かに旅立つ。

環は深い悲しみの中、病に臥すが、高木チカの言葉に導かれ、再び舞台へ戻る。批評家の「三浦環はもう終わった」という声が聞こえる一方で、観客たちは「もう一度、あの歌を」と願い、時空を超えてブッチーニの幻が現れ「蝶々夫人だけが歌ではない」と励ます。戦争が終わわり、環は歩んできた歌の道を振り返る。イギリス、アメリカ、ブラジル、アルゼンチン……歌は環の人生そのものだった。「戦争は終わった。再び、世界へ、明日へ」――環は声の一文字へ向かい、歩み始めるのだった。

(大石みちこ)

SPECIAL TALK /

日本オペラ協会公演

奇跡のプリマ・ドンナ -オペラ歌手・三浦環の「声」を求めて-

渡辺 康

Yasushi Watanabe

佐藤美枝子

Mieko Sato

相楽和子

Kazuko Sagara

海道弘昭

Hiroaki Kaido

——歴史の中の人物を、演じるということ

佐藤 あの時代に、海外に行くのは本当に命がけですよ。船で一ヶ月以上かけて渡るなんて途中で何が起るかわからない時代ですよ。

海道 そうですよ。ベルリンへ向かう船の上で、実は第一次世界大戦が始まっていたことを知らなかった、という話もありますよね。本人たちはただ「勉強のために行く」という気持ちだったはずなのに、結果として歴史の大きな流れの中に飛び込んでいきましたよね。

佐藤 政太郎が「ベルリンに行こう」と言い出したのが始まりですが、まさか環があれほど活躍するとは、誰も想像していなかったと思いますよ。

渡辺 環さんは元々お母さんと二人で生活するために自ら仕事を持つこと、自分の歌で生計を立てることを考えていた。政太郎と共に強い意志を持って海を渡ったんですね。

海道 そうだと思います。今でこそ総理大臣が女性の時代ですが、この明治の時代に女性が外に出て、我々がイタリアで見に行った劇場で歌っていたという事実がすごいことですよ。しかも野口英世とアメリカで一緒に写っている写真が残っていたり、山田耕作と同じ時代を生きていたり。そう考えると、本当に「歴史の教科書の中の人」ですね。

相楽 だからこそ、ただ役としてではなく、「その時代を生きた一人の人間」として向き合わなければいけない。そう思うと、自然と背筋が伸びますね。

——役作りとしての「場所」

海道 僕は、役作りのために「その場所を見る」こ



とをとても大事にしています。

山中湖に行ったときもそうでしたし、長崎で三浦環の銅像を見たときも、感覚が一気に変わりました。歌手は本番舞台上にいると、真っ暗な空間で歌います。でも、頭の中に景色があるかどうかで、音色や呼吸が全然違ってきます。



相楽 山中湖にある環さんのピアノは白鍵の素材が象牙でした。そのため黄ばんだ白鍵からは、環さんがどれほど熱心に鍛練を重ねてきたのかよく分かりました。もう一つ気になった点があります。一点へ音、一点イ音、一点ロ音、二点ハ音の白鍵が張り替えられていたのです。象牙材が張り替えられる理由には、乾燥によるひび割れや接着剤の劣化による剥がれなどがあるそうです。そう考えると、これらの鍵盤には環さんの指の脂があまり染み込んでいなかった、つまり「四」と「七」の音をしっかりと抜いて演奏されていたのだと思われま。環は日本に帰国してから、日比谷公会堂などの公演において、日本の小唄や端唄などの古典作品を積極的に取り入れ、それらを見事に芸術歌曲へと昇華して演奏されていたそうです。

海道 写真を見るだけでも違いますが、実際にその場に行き、空気を感ずるとより入ってくる。環や政太郎が「ここを見ていたんだな」と思うだけで、音楽の立ち上がりが変わる気がします。

——母国語でオペラを歌うということ

渡辺 日本オペラ協会です。初めて出演した「紅天女」の時は日本語歌唱に対する苦手意識があったのですが、今では言語による歌いにくさを感じないようになりました。どんな言語でも基本的な発声は同じだと考えています。そして何より



明治という時代を 生きた三浦環

MIURA TAMAKI

も母国語で歌える喜びはありますよね。聞いてくださる方の反応もダイレクトに分かりますし、今後も歌い続けていきたいですね。

佐藤 本心にそうだと思います。今、日本オペラの新作が増えているのには大きな意味があると思います。



海道 藤原歌劇団の創設者である藤原義江先生が掲げていた「日本のオペラをつくる」という志が、今につながっていますよね。

佐藤 継承ですよ。三浦環の時代から、ベルカントを歌い継いできた先輩たちがいて、私たちがいて、そして次の世代へ歌い継いでいく。その流れの中に、この作品があると思っています。

——渡辺俊幸の音楽が切り拓くもの

佐藤 渡辺先生の音楽は、とても優美で美しいです。私は「渡辺先生は天才だな」と思った瞬間があります。それは私たち四人が出演させていたオペラ「ニングル」の最後、星を見上げる場面です。それまで積み重ねてきたドラマから、音楽がガラッと変わるんですよ。「あ、ここで世界が変わった」と演じながら本当に驚きました。

海道 日本オペラで、空気が一変する瞬間を体感したのは僕も初めてでした。日本オペラが新しい時代に入った感じがしました。

佐藤 そうですね。これまでの日本オペラは、メロディが前に出ないことも多く、歌い手が譜面の中で必死に音楽を作っていく感覚が強かったと思います。でも渡辺先生の音楽は、聴く人にとって自然に入ってくる、その中にしっかりとドラマがありますよね。

海道

音楽は難しいですが、「聴きやすい」と思いま

す。その中で、演じる側にはものすごく豊かな表現を要求してくる場所もあります。

佐藤 音楽が演出や物語とパチッとハマった瞬間に、舞台全体が一段上の次元に行くと思います。今回の指揮者、演出家は「ニングル」と同じメンバーなので、より一層楽しみます。

海道 渡辺先生は、オペラだけでなく、ドラマや大河など、何万人の音楽を日常的に作っている作曲家だからこそ、オペラの中でも、「どうすれば人の心に届くか」を本能的に知っている方ですよ。日本オペラにその視点を持ち込んだ作曲家はあまりいなかったと思います。

佐藤 だからこそ、この新作オペラもただ美しいだけじゃない。緩急がありとても惹き込まれます。「ニングル」もそうですが、この作品は日本だけで終わらせてはいけないと思っています。音楽、テーマと全てを世界に届けて残していく価値があると思います。

海道 それを舞台に乗せるのが僕たちの役割だと痛感すると同時に責任は大きいですが、やりがいも大きいですね。

——公演への想い

相楽 最初にNHKアーカイブの三浦環の歌の録音を聴いたとき、「本当にうまい」と感じました。イタリア語の発音も、声の使い方も、あの時代にしてこの完成度か。と驚かされるものがありました。録音という限られた条件の中でも、フォルテの強さや声のエネルギーがはつきり伝わってくる。同時代には、エンリコ・カルーソやアデリーナ・パッティのような歌手たちが実在していたわけで、その中で肩を並べて歌っていたという事実だけでも、三浦環がどれほ



ど特別な存在だったのかがわかります。そんな歌手たちが生きていた時代に、日本人の女性がそこに立っていたというのは、やはり驚異的です。

渡辺 名歌手との共演の話では環さんは相手役のベニャミーノ・ジリーリの声があまりにも素晴らしく、聞き惚れていたから自分が歌うことを忘れたという逸話もありますね。

佐藤 私たちが憧れている伝説の歌手の名前がたくさん出てくる時代の人ですね。

相楽 私自身も、日本の音楽をルーツに持つて歌の道に入りました。なので、音楽の変遷として全てはわからないですが、三浦環と同じ始まりから歩んでいるんだなと共感するところがあります。だからこそ、三浦環の人生を追体験するようにこの役を生きることは、強い共感と覚悟を感じています。

海道 三浦環のことを知れば知るほど、歴史、音楽、人と人とのつながりが見えてくる。プレッシャーはありますが、それ以上に、この作品に関われることが純粋に楽しいですね。

——劇場で「声の物語」の一瞬一瞬を、どうぞ一緒に楽しみください

日本オペラ協会公演

奇跡のプリマ・ドンナ

—オペラ歌手・三浦環の「声」を求めて—

2026年3月7日(土)・8日(日) 両日14:00

新宿文化センター 大ホール

作曲 渡辺俊幸
原作・脚本 大石みちこ
指揮 田中祐子
演出 岩田達宗
三浦環 佐藤美枝子／相楽和子
三浦政太郎 渡辺 康／海道弘昭
ブッチーニ 須藤慎吾／村松恒矢
登波 鳥木弥生／城守 香
熊太郎 久保田真澄／山田大智
安井 川久保博史／井出 司
高木チカ 沢崎恵美／長島由佳
お雪 鈴木美也子／座間由恵
合唱 日本オペラ協会合唱団
管弦楽 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

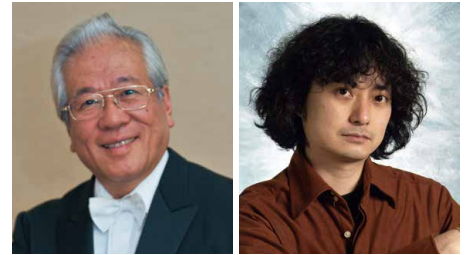
藤原歌劇団・日本オペラ協会合同公演
NISSAY OPERA 2026

團 伊玖磨作曲

夕鶴 YUZURU

オペラ全1幕 ニュープロダクション(新制作)

2026年11月27日(金)・28日(土)・29日(日) 日生劇場



指揮:星出 豊

演出:栗國 淳

つう



伊藤 晴
(11/27&29)



芝野 遥香
(11/28)

与ひょう



澤崎 一了
(11/27&29)



松原 陸
(11/28)

運ず



江原 啓之
(11/27&29)



井出 壮志朗
(11/28)

惣ど



山田 大智
(11/27&29)



杉尾 真吾
(11/28)

管楽器:新日本フィルハーモニー交響楽団

【チケット発売日】2026年5月発売開始予定

【チケット料金】S席 16,000円 A席 12,000円 B席 9,000円 C席 6,000円 D席 4,000円

主催:公益財団法人日本オペラ振興会 共催:公益財団法人ニッセイ文化振興財団[日生劇場]

日本オペラ協会公演 日本オペラシリーズNo.89

水野修孝作曲

天守物語 TENSU MONOGATARI

オペラ全2幕 ニュープロダクション(新制作)

2027年1月9日(土)・10日(日) 昭和女子大学人見記念講堂



指揮:園田 隆一郎

演出:中村 敬一

富姫



佐藤 美枝子
(1/9)



小林 厚子
(1/10)

図書之介



須藤 慎吾
(1/9)



村松 恒矢
(1/10)

亀姫



小林 沙羅
(1/9)



別府 美沙子 他
(1/10)

合唱:日本オペラ協会合唱団

管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団

【チケット発売日】2026年6月発売開始予定

【チケット料金】S席 18,000円 A席 15,000円 B席 8,000円 C席 3,000円

主催:公益財団法人日本オペラ振興会

SEASON LINEUP

藤原歌劇団公演

G.プッチーニ作曲

蝶々夫人 MADAMA BUTTERFLY

オペラ全3幕 新演出

2027年3月6日(土)・7日(日) 新宿文化センター 大ホール



指揮: 柴田 真郁



演出: 粟國 淳

蝶々夫人



砂川 涼子
(3/6)



迫田 美帆
(3/7)

ピンカートン



笛田 博昭
(3/6)



海道 弘昭
(3/7)

シャープレス



押川 浩士
(3/6)



岡 昭宏
(3/7)

他

合唱: 藤原歌劇団合唱部

管楽器: 東京フィルハーモニー交響楽団

【チケット発売日】2026年7月発売開始予定

【チケット料金】S席 18,000円 A席 15,000円 B席 12,000円 C席 8,000円 D席 3,000円

主催: 公益財団法人日本オペラ振興会

JOFプレミアムシート 新規会員

募集中!

\\ お得で魅力いっぱいのJOE(日本オペラ振興会)鑑賞会員 //

特典

1

最優先でお席を確保いたします

特典

3

ゲネプロ(最終舞台稽古)・バックステージ見学へのご招待

※ゲネプロ見学は、お選びいただいた演目のみで観覧いただけます。
※バックステージ見学は、会場により実施しない場合もございます。

特典
2

有料プログラム引換券を進呈
※1部1,500円

特典
4

その他主催コンサートへご優待価格でのご案内 他

選べる!
〈JOEプレミアムシート〉
2026/27シーズン

藤原歌劇団・日本オペラ協会の公演がまとめてお申し込みいただける
〈JOEプレミアムシート〉2026/27シーズンの申し込みを開始しております!
全3演目を最大15%OFFでお得にご覧いただけます。
お得な〈JOEプレミアムシート〉をお見逃しなく!

どの会員様も数量とお申し込み期限に限りがございますので、お早めにお申し込みください。

詳細・お申し込みはこちらから ➡



新入団・会員 紹介

藤原歌劇団

日本オペラ協会

正 = 正団員 準 = 準団員

正 = 正会員 準 = 準会員

* = 準団員・準会員より 推 = 推薦による

※アイコンのない団員・会員はオーディションによる



正正 S
いしい ようこ
石井 揚子*



正正 S
なかむら えり な
中村 英里奈



正推 S
あいはら さとみ
相原 里美



準正 S
たかき かおり
高木 佳央理



準準 S
かしき ともみ
櫻木 伴美



準準 S
ふじもと えみ こ
藤本 恵美子



準準 S
やまくち え
山口 はる絵



準準 S
やまだ ゆみ
山田 侑美



準準 Ms
クニャゼワ アナスタシア
Kniazeva Anastasiia



準準 T
いしい れい
石井 怜



準 S
かまや みめ
鎌谷 実芽*



準 S
さとう ひさみ
佐藤 寿美



準 S
にいむら かおり
西村 香織



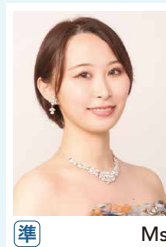
準 S
はなわ あすみ
塙 亜寿美



準 T
うえの たけし
上野 毅



準 S
たかはし ともこ
高橋 朋子



準 Ms
しみず あゆ か
清水 歩由果

2026年度オペラ歌手育成部募集

募集要項・詳細が決まり次第、公式webサイトに掲載いたします。



プロフェッショナルコース

～オペラの舞台で輝く人材を募集します～

修業年限

1年または2年

*実力にあったコースを受験可能

募集コース

●プロフェッショナルIコース

レチタティーヴォ・セッコに重きを置き、オペラ・アンサンブルを主体として、歌唱表現の土台作りと舞台表現を併せて更に高いステージへレベルアップを図ります。

●プロフェッショナルIIコース

個々の成長と個性・資質を重視し、本舞台に向けてオペラ・アンサンブルとオペラ全曲の研修を行い、実質共にデビューとなる新人育成アンサンブル公演に出演し、オペラ歌手としての活動を開始していきます。

《奨学金》プロフェッショナルコース対象

入所試験時・進級試験時の成績優秀者には奨学金として育成部授業料の全額または半額に相当する額を授与します
※2025年度5名実績

アミーチコース

～楽しみながら声楽とオペラを学べます～

修業年限

1年(次年度再受講可能)

半期コースもあり(4月～9月/10月～翌年3月の半年)

募集コース

●月曜日 夜コース 17:30-20:30

●水曜日 昼コース 10:00-13:00

●土曜日 昼コース 10:00-13:00

●日曜日 昼コース 10:00-13:00

コース内容

オペラアンサンブル(グループ授業)

※声楽個人レッスンはカリキュラムに含まれておりません。ご希望があれば登録制で指導経験豊富な所属歌手をご紹介します。

第44期新人育成オペラアンサンブル公演



「オルフェオ」



「秘密の結婚」

お問い合わせ先

公益財団法人日本オペラ振興会 オペラ歌手育成部

〒215-0035 神奈川県川崎市麻生区黒川76-1 TEL 044-819-5505(平日10:00～17:00)

Schedule & Information

2026年1月現在

2026年1月～6月 外部出演マネージメント

<p>JAN 1 1/3(土) 第68回ニューイヤーオペラコンサート 出演:伊藤 晴、笛田博昭 会場:NHKホール</p> <p>1/23(金)・24(土) 仙台フィルハーモニー管弦楽団 第387回定期演奏会 出演:伊藤 晴 会場:日立システムズホール仙台 コンサートホール</p> <p>1/24(土) ニューイヤーコンサート2026 出演:西本真子、澤崎一了 会場:東京文化会館 大ホール</p> <p>1/25(日) 深川市文化交流ホールみ・らい 開館20周年記念コンサート み・らいNEW YEAR CONCERT 出演:大森智子、村上敏明 会場:深川市文化交流ホール み・らい</p> <p>1/30(金)・2/1(日) 【東海芸術劇場開館10周年記念事業】 開館10周年記念 オペラ「蝶々夫人」 出演:上江隼人(シャープレス) 会場:東海市芸術劇場 大ホール</p>	<p>FEB 2 2/22(日) 大阪交響楽団 第286回 定期演奏会 【オペラ・演奏会形式シリーズ Vol.4 “耳なし芳一”】 出演:渡辺 康(芳一) 伊藤貴之(平家の亡霊・武士) 会場:ザ・シンフォニー ホール</p> <p>MAR 3 3/5(木)・7(土)・8(日)・10(火)・12(木) 新国立劇場「ドン・ジョヴァンニ」 出演:田中大揮(騎士長) 会場:新国立劇場 オペラバレス</p> <p>3/7(土)・8(日) びわ湖ホール プロデュースオペラ 『トゥーランドット』全3幕 (イタリア語上演・日本語字幕付) 出演:谷 明美(トゥーランドット) 中井亮一(ポン) 会場:滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール</p> <p>3/15(日) 藤沢市民オペラ『ランスへの旅』 (演奏会形式・イタリア語上演・日本語字幕付) 出演:光岡暁恵(コリンナ) 石田 滉(モデスティーナ) 山本康寛(騎士ベルフィオーレ) 伊藤貴之(シドニー卿) 小野寺 光(ドン・プロフォンド) 会場:藤沢市民会館 大ホール</p>	<p>MAY 5 5/23(土) 第500回定期公演マイスター・シリーズ 「第九」 出演:石田 滉 会場:石川県立音楽堂 コンサートホール</p> <p>JUN 6 6/6(土) 群馬交響楽団x高崎芸術劇場 GTシンフォニック・コンサート vol.2 オペラ『トスカ』(セミ・ステージ形式) 出演:佐藤康子(トスカ) 上江隼人(スカルピア) 会場:高崎芸術劇場 大劇場</p> <p>6/12(金) 名古屋フィルハーモニー交響楽団 第546回定期演奏会 「トスカ」 出演:佐藤康子(トスカ) 上江隼人(スカルピア) 会場:愛知県芸術劇場 コンサートホール</p> <p>6/13(土) 伊藤晴ソプラノリサイタル 出演:伊藤 晴 会場:宗次ホール</p> <p>6/20(土) 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 Dramatic Series 歌劇「トスカ」 出演:佐藤康子(トスカ) 上江隼人(スカルピア) 会場:横浜みなとみらいホール</p>
<p>FEB 2 2/14(土) 広島交響楽団 第458回プレミアム定期演奏会 楽劇《ワルキューレ》第1幕 (演奏会形式) 出演:村上敏明(ジークムント) 会場:広島文化学園 HBGホール</p> <p>2/18(水)・21(土)・23(月・祝)・26(木)・3/1(日) 新国立劇場「リゴレット」 出演:網永悠里(小姓) 会場:新国立劇場 オペラバレス</p> <p>2/21(土) 群馬交響楽団第615回定期演奏会 楽劇《ワルキューレ》第1幕 (演奏会形式) 出演:村上敏明(ジークムント) 会場:高崎芸術劇場 大劇場</p> <p>2/22(日) 群馬交響楽団上田定期演奏会-2026冬 楽劇《ワルキューレ》第1幕 (演奏会形式) 出演:村上敏明(ジークムント) 会場:サントミュージゼ 大ホール</p>	<p>APR 4 4/2(木)・4(土)・6(月)・10(金)・12(日) 新国立劇場「椿姫」 出演:久保田真澄(医師グランヴィル) 会場:新国立劇場 オペラバレス</p> <p>4/11(土) 東京春祭(よく解る)シリーズ vol.2 《マノン・レスコー》 出演:小林厚子(マノン・レスコー) 会場:東京文化会館 小ホール</p> <p>MAY 5 5/20(水) ランチタイム・クラシック・コンサート 出演:小野寺 光、林 直樹 会場:宝くじドリーム館</p> <p>5/24(日)・26(火)・28(木)・30(土) 新国立劇場「ウェルテル」 出演:須藤慎吾(アルベール) 伊藤貴之(大法官) 会場:新国立劇場 オペラバレス</p>	

※今後、中止・延期になる可能性がありますので予めご了承ください。

日本オペラ振興会 公式webページ&SNSで情報更新中!

藤原歌劇団と日本オペラ協会のオペラ公演はもちろん、主催コンサートや協力公演の情報も公開!

オンラインにて24時間チケット購入が可能!

JOF Blog舞台裏レポートで、舞台のウラ側や稽古風景、育成部の授業風景などをご紹介します!

お得なシーズンセット券<プレミアムシート>も簡単にご入会できます!

オペラ鑑賞の「いろは」や知らなかったオペラのホント!?を「コラム」で大公開!

最旬のアーティストをもっと知ってもっと楽しむコーナー「CiaOpera!」ではオフステージのオペラ歌手をご紹介します!

日本オペラ振興会

HPへのリンクはこちら▶



公式SNSでも随時情報更新中!
ぜひご覧ください!



最新の公演情報・チケット案内をいち早くお届け!



日本オペラ振興会
LINE
公式アカウント

友だち募集中!
@194apfup

登録は
\コチラから!/\



公益財団法人日本オペラ振興会では ご寄付・賛助会員によるご支援をお願いしています

日本オペラ振興会では、オペラ芸術の普及と発展を目指し、皆さまからのご寄付および賛助会員としてのご支援を広くお願いしております。

寄 付 金	ご自由な金額から、随時お申込みいただけます。
賛 助 会 員	年会費:法人30万円から 個人10万円から
税 法 上 の 優 遇 措 置	当振興会は公益財団法人につき、当振興会への寄付金、賛助会費に対しては、法人、個人それぞれに税法上の優遇措置が適用されます。

お問い合わせ・資料のご請求
日本オペラ振興会総務 TEL 044-819-5505 FAX 044-819-5205 E-mail support@jof.or.jp